

# 新進若手歌手とスペシャリスト揃いのオーケストラ

## 150名の合唱がお送りする大スペクタクルドラマ『マタイ受難曲』

バッハは社会や時代の矛盾を見据える、見識のある作曲家だと私は思う。『マタイ受難曲』が、民族、宗教、宗派、時代を超えて人々を魅了してやまない理由はそこにあるのではないだろうか。バッハ生誕は1685年、9歳で母、10歳で父と死別し、孤独な少年時代を過したと推察できる。当時のドイツは、三十年戦争(1618-48年)後の荒廃著しい時であった(戦争の結果、ドイツ人口は、1600万人から3分の1減少して1000万となったと言われる)。そしてカトリックとプロテスタントの間の対立構造は、現代でも依然続いている。

バッハが生きた時代、神との対話は間接的なもので、<神>と<人間>との間には為政者が立ちふさがり、為政者と体制に対し強い対抗意識がバッハにはあったのではないかと思う。本来<神>と<人間>は個として直接向き合うべきものなのだ。しかし、その主張は神聖ローマ帝国、教会、領主の存在を危うくするかもしれない。イエスの状況も同じだったのではないか。ローマやユダヤ教の支配層の力が神と人間の間に入り込むことの非を、イエスは黙することで糾弾する。イエスの教えの奥義は「沈黙」の中にある。福音書の文字には表現されなかったが、イエスが伝えたかった神と人間のかかわりのあるべき姿がそこにあった。バッハはそれを明確な言葉(歌詞)と芸術性の高い音楽によって表現し、聴く者、歌う者に罪から解放される自由を知らせたのだ。

『マタイ受難曲』での音楽発信は、宮廷、領主、貴族など支配層にとどまらず、すべての人々に向けられたものである。農民の

間で親しまれた舞踊音楽を彷彿させる8分の6拍子のリズム、一般信徒が歌い継いできたコーラルの旋律、これらはマタイを構成する重要なアイデアの1つではなかろうか。

バッハは音楽的に人を惹きつけるものを最大限に活用している。イエスの受難の物語が進行するとともに音楽は迫力を増し、美しい旋律が感動を呼び、聴く者の心をつかんで離さない。その高度な作曲技術をもって作られた『マタイ受難曲』はバッハの最高傑作と呼ばれるようになる。

確固たる音楽的土台の上にバッハは「愛ゆえに、愛をもって神は人間の弱さに寄り添う」というメッセージを発信した。これが、『マタイ受難曲』の根幹となる哲学的なのだ。

ソプラノのアリア《Aus Liebe》で、神の愛は惜しみなく私たちに注がれていることが歌われる。ここでは通奏低音が消え、人間の知性や理性を超えたところでの神と人間の直接の結びつきが表現される。バッハは、神と人間の関係性は直接的であるべきで、いかなる政治的、宗教的権力の介入もあるべきではないと考える。これはバッハの信念といえるだろう。

『マタイ受難曲』の最後のアリアはバスによって歌われるが、《Mache dich》は、イエスの死を自らの心の中に受け止め、埋葬する。「それ以外に神と直接向き合い、つながる術はない」と強いメッセージを残す。

300年生き残ってきた『マタイ受難曲』のもつ普遍性とは何か。高度な芸術性に裏付けされ、現代の私たちが抱える問題をも解くヒントを、この作品は有していると思えてならない。(郡司)

### ■指揮 郡司 博 Hiroshi Gunji

指揮を山田一雄、ハンス・レーヴライン両氏に師事。E.インバル、G.ベルティニ、O.レナルド、G.シノーポリ、ジョン・ヨンソンなど内外一級の指揮者と共演しプロオーケストラの代表的な演奏会でも活躍。マラー『千人の交響曲』、『復活』、ブルックナー『テ・デウム』、ヴェルディ『レクイエム』等いずれもその指導力は高く評価されている。またバッハを中心とするオラトリオ指揮者としても活躍。ザルツブルグ大聖堂より度々指揮者として招聘される等、海外での活動も多い。

### ■福音史家 西山 詩苑 Shion Nishiyama

東京藝術大学声楽科及び同大学院修士課程オペラ専攻修了。平成28年度公益財団法人青山財団奨学生。第74回全日本学生音楽コンクール全国大会入選。第67回藝大オペラ定期公演『魔笛』タミーノ役でオペラデビュー。またテノールソリストとして第68回、第69回藝大メサイアや、モーツァルト作曲『レクイエム』、ハイdn作曲『天地創造』、ベートーヴェン作曲『第九』、『ミサ・ソレムニス』などに出演。

### ■イエス 原田 光 Hikaru Harada

東京藝術大学音楽学部声楽科卒業。同大学院音楽研究科修士課程声楽専攻三年在学。オペラ『コジ・ファン・トゥッテ』グリエルモ、『魔笛』パパゲーノ、『フィガロの結婚』フィガロ、アルマヴィーヴァ伯爵をハイライト形式で、宗教曲ではバッハ『ロ短調ミサ』、ヘンデル『メサイア』、モーツァルト『レクイエム』、ハイdn『四季』『天地創造』、ブラームス『ドイツ・レクイエム』、デュリュフレ『レクイエム』等のソリストに出演。第5回水と緑のまち江戸川新進音楽家コンクール声楽部門入賞。第30回ブルクハルト国際音楽コンクール声楽部門第3位。声楽を吉田浩之氏に師事。

### ■ソプラノ 渡邊美沙季 Misaki Watanabe

東京藝術大学声楽科卒業。卒業時に松田トシ賞、アカンサス音楽賞、同声会賞を受賞。第89回読売新人演奏会出演。第52回、翌第53回島根県高等学校音楽コンクール声楽の部第1位。第67回、翌第68回瀧廉太郎記念全日本高等学校声楽コンクール優秀賞、及び竹田市教育長賞受

賞。第68回全日本学生音楽コンクール声楽部門高校の部全国大会第2位。第74回全日本学生音楽コンクール声楽部門大学の部東京大会1位、全国大会2位。第67回藝大オペラ定期公演『魔笛』パミーナ役にて出演。『フィガロの結婚』スザンナ、『ヘンゼルとグレーテル』グレーテル、フォーレ『レクイエム』、モーツァルト版『メサイア』、サンサーンス『クリスマス・オラトリオ』等のソリストで出演。澤畑恵美、菅英三子両氏に師事。現在宗次徳二特待奨学生として、東京藝術大学大学院音楽研究科修士課程オペラ専攻在学中。

### ■アルト 後藤真菜美 Manami Goto

東京藝術大学音楽学部声楽科卒業。同大学院音楽研究科修士課程オペラ専攻在学中。第25回ジュニアクラシックコンクール高校部門全国大会奨励賞、翌年第27回同コンクール全国大会入賞。第69回毎日学生音楽コンクール声楽部門高校の部東京大会入選。第74回全日本学生音楽コンクール声楽部門大学の部東京大会入選。第12回東京国際声楽コンクール新進声楽家部門全国大会第2位。第5回マルゲリータグリエルミ声楽コンクール新進歌手部門第1位。第67回藝大オペラ定期公演モーツァルト『魔笛』にて、侍女Ⅲでオペラデビュー。その他、デュリュフレ作曲『レクイエム』、ジェンキンス作曲『スターバト・マーテル』のソリストを務める。これまでに小宮順子、甲斐栄次郎、手嶋真佐子各氏に師事。

### ■テノール 頓所 里樹 Riki Tonsyo

札幌市出身。東京藝術大学音楽学部声楽科卒業。現在、同大学修士課程独唱専攻に在学。サントリーオペラ・アカデミー・プリマヴェーラコース第5期修了。これまでに声楽を川原敦子、櫻田亮の各氏に師事。

### ■バス 小河 佑樹 Yuki Ogawa

埼玉県所沢市出身。東京藝術大学音楽学部声楽科卒業。現在、同大学院音楽研究科器楽専攻古楽研究分野バロック声楽修士課程に在籍。声楽を山口由美子、甲斐栄次郎の各氏に、バロック音楽を野々下由香里氏に師事。大学1年次より東京藝術大学バッハカンタータクラブに所属し、教会カンタータ等でバスソリストを務める。また、2020年3月より演奏委員長を務めている。

【ヘンデル『メサイア』合唱団員募集】 練習 10月末から月曜午後(新宿)、木曜夜(新宿・池袋)、金曜午前&夜間(立川)  
公演 2023年2月22日(水)夜公演 杉並公会堂大ホール 指揮:渡部智也/独唱:中江早希、加納悦子、中嶋克彦、清水勇磨